

事業概要【魅力発見。ふくしまローカル鉄道利活用事業】

申請者	福島県ほか6自治体※					初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	125,049千円 (37,055千円)
経費の類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	人口減少・高齢化が進む中、サービス産業が衰退し、それが若年層の減少を加速させるという負のスパイラルを回避する観点から、鉄道沿線を軸に都市機能が集積するという構造を活かして、沿線の市町村間で機能を分担・連携する「コンパクト+ネットワーク」を構築し、住民が参画した地域社会を形成することにより、持続可能な地方創生を実現する。						
事業概要・主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>○磐越東線の魅力を強烈に発信することで、鉄道ファンを中心に県内外から誘客し路線の認知度を向上させるとともに、沿線住民の関心を高め、住民を巻き込んだ駅と鉄道を活かした地域活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磐越東線「ふくしま鉄道博」開催等（委託料）16,763千円 ・公共交通サービス運行実証事業等（委託費等）5,990千円 ・水郡線利活用事業（サイクリングイベント）（委託料）3,000千円 ・小川地区域内交通確保実証事業等（負担金等）6,134千円 ・団体臨時列車運行事業等（委託費）3,368千円 ・小野新町駅開業110周年記念イベント（委託費等）1,800千円 						
地域の多様な主体の参画	<p>沿線の商工団体、市町村、県と沿線自治体で構成する協議会等において、地元イベントと県事業の連携を図るとともに、沿線地域の中心的な立場からの意見を吸い上げ、今後の運営への反映に取り組む。</p> <p>沿線の高校・大学等において、利活用プレゼン大会参画や部活動・サークル等によるイベントへの協力を図るとともに、鉄道の通学利用者の立場、地域の将来を担う若い世代の立場からの意見を吸い上げ、今後の運営への反映に取り組む。</p> <p>沿線の新聞社等において、事業に関する情報発信への協力を図るとともに、メディアの立場からの意見を吸い上げ、今後の運営への反映に取り組む。</p>					<p>KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<p>①地域の人口・世帯数（▲6,389人） ②来街者による賑わいが維持できていると回答した商店街の割合（+4.50%） ③地元自治体等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校の割合（+40.00%） ④地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合（高校在学中）（+70.00%）</p>

※福島県、郡山市、石川町、玉川村、いわき市、田村市、小野町の広域連携事業